



発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町2-7-5 (砂防会館内)
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664

編集・発行人 大場真弥
印刷所 株式会社白橋印刷所

会員(定価1部100円) その他一般(定価1部150円)
毎月1回15日発行

平成19年度 全国治水大会栃木大会の開催

とき：平成19年6月7日(木)
ところ：栃木県総合文化センター



(栃木県県土整備部提供)

目次

平成19年度全国治水大会栃木大会の開催	1
治水議員連盟・都市河川整備促進議員懇談会の合同会議が開催される	23
第59回通常総会を開催	23

梅雨入り前の雲の多いどんよりした天候ではありませんでしたが、大会開始までは雨も降らずに、全国各地から大勢の参加者が集って来て、大会雰囲気徐徐に盛り上がってきました。

1. 開会のことば

平成19年度全国治水大会栃木大会は、6月7日(木)、全国治水期成同盟会連合会の第59回通常総会、特別講演に引き続き、同連合会、栃木県、宇都宮市が主催して、午後2時30分、会場となった栃木県総合文化センターには全国の市町村長をはじめ、全国各地から1,200余名の治水関係者が参加して開催されました。

開会に当たり山内正彦大会実行委員会会長(栃木県県土整備部長)による開会の挨拶があり、福田武隼栃木県土木事業協議会河川部会長(真岡市長)が大会の座長に推挙されて大会が進められました。

2. 主催者あいさつ、来賓祝辞等

まず、江藤守國全水連副会長(久留米市長)、福田富一栃木県知事ならびに佐藤栄一宇都宮市長がそれぞれ主催者として挨拶をし、吉田六左エ門国土交通大臣政務官続いて国井正幸農林水産副大臣(参議院議員)が祝辞を述べられた後、ご臨席いただいている来賓が紹介され、祝電が披露されました。

3. 意見発表、治水事業の視点

小憩の後、意見発表に移り、相原正明岩手県奥州市長ならびに森田康生高知県土佐市長が、過去の大災害の実体験をもとに、河川の整備、ダム建設による洪水調節・用水の確保等ハード・ソフト両面からの備えの重要性と、これに対処するための予算の確保の必要性を力強く訴えられました。

続いて、関克己治水課長から「治水事業の視点」と題して、河川整備が進んでいる河川と未整備の河川による被災に大きな差異が顕著に現れ、治水対策

の重要性と、厳しい財政上の制約はあるが先行投資の必要性等について強く訴えられたほか、川には健康・環境という要素もあり安らぎを感じる川づくりを併せて進めていきたいというご説明がありました。

4. 大会決議

続いて、大会決議文を佐藤正洋栃木県那須町長が力強く朗読し、全会一致で採択されました。

5. 次期開催地の決定、閉会のことば

次に、次期開催地を兵庫県と決定し、森脇康仁兵庫県河川整備課長から引き受けの挨拶をいただいた後、津田利幸宇都宮市建設部長が閉会の言葉を述べ、平成19年度全国治水大会栃木大会は盛会裡にその幕を閉じました。

大会終了後、アトラクションとして宇都宮を代表するJAZZカルテット「サウンドクラフト」の皆さんの軽快なリズムに酔いしれ、大会参加者は充実した気分で会場を後にしました。

6. 要望活動

大会で決議された要望書をもって、6月20日および25日に関係国会議員の先生方、内閣府、財務省等の関係省に要望活動を実施いたしました。



来賓の方々



主催者席



会場風景

開会のことば



全国治水大会栃木大会
実行委員会会長
栃木県県土整備部長

山内正彦

栃木県県土整備部長の山内でございます。本日は皆様、全国からようこそ栃木県へお出でくださいましてありがとうございます。それでは只今より「平成19年度全国治水大会栃木大会」を開会いたします。

座長推挙



栃木県土木事業協議会河川部会長
真岡市長

福田武隼

皆様こんにちは。本大会の座長を務めさせていただきます栃木県土木事業協議会河川部会長の真岡市長の福田でございます。本大会が円滑に進行できますよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

主催者挨拶



全国治水期成同盟会
連合会副会長
久留米市長

江藤守國

本日は、全水連の会長でいらっしゃいます陣内先生が、国会の都合で出席されておりませんので、私副会長を仰せつかっております久留米市長の江藤でございます。一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

本日、ここ宇都宮市におきまして平成19年度全国治水大会を開催いたしましたところ、吉田国土交通大臣政務官をはじめ、地元国会議員の先生方、そして国土交通省の皆様並びにご来賓の皆様、そして全国各地から治水関係事業の推進に大変ご尽力をしておられます市町村長の皆様をはじめ、関係の皆様にも多数ご参集をいただきまして、本大会がこのように盛大に開催できますことは、主催者の一人といたしまして誠に心強く、また皆様方の深いご理解とご熱意に、心から敬意を表する次第でございます。

また本大会を開催するにあたりまして、格別のご高配を賜りました福田栃木県知事、佐藤宇都宮市長をはじめ、関係者の皆さんに心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

ここ栃木県は、世界遺産の「日光の社寺」をはじめ、日光国立公園という観光地を有しておられる県でございます。関東平野の上流域に位置し、山地から発する河川は急勾配であるため流速が早く、大雨が降ると一気に流れだし、洪水を引き起しやすい自然的条件にあります。県内のすべての河川は1級河川で利根川、那珂川、久慈川の3水系となり、関東平野を滔々と流下し、大きな恵みをもたらすと同時に、時には大水害をもたらす河川でございます。近くは那須地域を襲った平成10年8月末の豪雨で、甚大な被害が発生したことは記憶に新しいところでございます。

このような状況から、栃木県におかれましては2006年から始まる栃木県総合計画「とちぎ元気プラン」を策定されまして、災害危機管理に強い県土づくりを積極的に推進されておられますことに対し、

深く敬意を表する次第でございます。このような時期に、ご当地で本大会を開催できますことは、治水事業推進を目指しております私どもにとりまして、時期を得て意義深いものがあると認識をしております。

さて全国的にみますと、平成16年の大水害の発生以来、台風や局地的な集中豪雨が頻発し、毎年全国各地に激甚な、甚大な大災害が発生しております。昨年7月には、九州から本州にかけて梅雨前線が活発となり、九州南部を中心に記録的な大雨となって長野県や鹿児島県をはじめ全国で死者、行方不明者32名、床上浸水3,200棟を超える甚大な被害が発生いたしました。

特に近年は異常気象ともいわれ、地球規模での気候変動により、台風や集中豪雨が頻発し、大きな災害が発生する傾向がございます。そのうえわが国は世界一の地震国であり、東海地震、東南海地震が近い将来に発生する可能性が高いと予測されておられまして、河川、海岸堤防等の耐震対策も緊急に講ずる必要がございます。

また渇水による被害も続いております。昨年は、四国や中部地方におきまして梅雨期前半の少雨により吉野川、木曾川等で取水制限が行われ、市民生活に大きな影響を与えました。地球温暖化傾向により、年間降雨量は近年減少傾向にあり、水不足による渇水に対する安全安心の備えとして、計画的なダム建設が重要でございます。

このように痛ましい自然災害が毎年、全国各地で頻発するのはわが国土が地形、地質、気象、地震などの自然的諸条件が厳しいうえに、財政上の制約もあって治水施設の整備が思うように進めることができていない状況からでございます。治水事業の促進が極めて急務であるにもかかわらず、肝心の治水事業予算は毎年縮減され、19年度の予算は約10年前の50%近くにまで減少している状況でございます。そのうえ最近の度重なる強力な台風や記録的な集中豪雨により、被災河川の災害を防止するという後追いの対応に追われ、災害を未然に防止するための計画的な事前投資がますます困難となってきております。

私たちは、常に水害の危険と背中合わせに生活している人の多いことを、強く認識しなければなりません。国民の生命と財産を守り、真に国民が安心して生活できる、災害を未然に防止する、災害予防が国の責務であろうと考えます。

今年も平成20年度の概算要求の時期が迫ってまいりました。財政的制約を考慮いたしますと、多様な整備手法を用い、河川堤防の点検により安全性が疑問とされた危険箇所等重点的に投資するほか、ハザードマップの整備や避難態勢の構築のための情報提供を充実するなど、ハード、ソフトが一体となった減災対策を推進する必要があります。

当連合会といたしましては、平成20年度治水関係事業予算の必要額の確保に向けて、本大会を契機に強力に運動してまいります所存でございます。

ご参集の皆様方の力強いご支援を心からお願いを申し上げますとともに、ご参集の皆様方のますますのご活躍、そして栃木県のますますの発展を心からお祈りいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。



栃木県知事

福田 富一

皆様こんにちは。ご紹介いただきました知事の福田でございます。平成19年度の全国治水大会が、全国各地から多くの関係者の皆様方のご出席のもと、こうして盛大に開催できますことを200万県民を代表いたしまして、栃木県知事として皆様方から歓迎をいたしますとともに、心からお喜びを申し上げます。また公私共にご多忙のところ、国土交通大臣政務官の吉田先生、そして地元選挙区の農水副大臣の国井先生、多くの皆様方をお迎えすることができました。これまた厚く御礼を申し上げます。

本県はただ今、久留米市長の江藤市長さんからも、会長としての挨拶の中で紹介をしてもらいましたけれども、関東平野の上流域に位置しまして、県土の55%を森林で占めるといふ、自然豊かなところでございます。渡良瀬遊水地、去年谷中村の廃村100年を迎えましたけれども、3,300ヘクタールの遊水地が洪水調整をしております。この遊水地があるからこそ東京は水浸しにならないで済んでいる。前国土交通大臣が栃木県にお見えになったとき、そんなこ

とも吉田政務官にも申し上げました。ですので、首都東京の防波堤を本県で担っているところのように思っております、水資源の確保も含めて、防災面での大きな役割を果たしております。

しかし、美しい山並みから流れる清流も時として牙をむきまして、貴い生命や貴重な財産に多くの被害を及ぼしてまいりました。特に本県におきましては、平成10年8月に北部の那須地域を記録的な豪雨が襲いまして、甚大な被害をもたらしました。未だ記憶新しいところでありまして、那須の牛が水戸の那珂川で保護されるという、こういう情景がテレビでも放映されたところでもあります。

県といたしましては、災害に強い県土づくりを推進し、洪水予報、あるいは河川水位等の防災情報を県民へ提供するなど、ハード整備とソフト対策が一体となった施策を積極的に展開しております。

これからは、こういったこととあわせ、今日お出での皆さん方はいずれも川ガキで、楽しく川で遊んだ方々ばかりだと思いますけれども、川は自然の遊園地、「ち」は地面の「地」じゃなくて「池」の方ですけれども、自然の遊園地だと思っております。この自然の遊園地をもう一度取り戻して川ガキを多く生まれさせ、また川ガキが生まれるような、こういう河川行政も進めていかなければならないと考えております。

さて今日は、岩手県の相原奥州市長さん、そしてまた高知県の森田土佐市長さんから貴重な意見発表、さらには国土交通省河川局の関治水課長さんからの治水事業のご説明などがあると伺っております。ご来場いただきました皆様とともに今後の治水対策、利水対策を進めていくうえで、参考にしたいと考えております。

なお本県は、世界遺産に登録されました「日光の社寺」をはじめとして歴史、文化、景勝地が数多くございます。しかし残念ながらマスコミによりますれば、新聞によりますれば「全国一影が薄い県」、「全国一ブランド力の低い県」とこういうふうに言われております。決してそんなことはございませんので、今日は600名の県外からのお客様がお出でございませぬけれども、お時間がありましたら栃木県をよく見てもらえれば、ありがたいと心から願っております。



宇都宮市長

佐藤 栄一

皆様こんにちは。ご紹介いただきました宇都宮市長の佐藤栄一でございます。平成19年度全国治水大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日、この大会が宇都宮市を会場として開催されますことは誠に光栄であり、全国からおこしの皆様方を心から歓迎申し上げます。また私ども、この大会に公私ともにお忙しい中をご臨席いただきました吉田政務官はじめ、ご来賓の皆様方に心から厚く御礼を申し上げます。

さて本市は、栃木県のほぼ中央に位置し、豊かな水と緑に恵まれ、市の中心部を流れる1級河川田川ではこれからの夏の時期、盛んにアユ釣りが行われるほど、清らかな清流が流れております。また本市は今年3月の上河内町、河内町2町との合併によりまして、北関東で最大の50万都市として新たにスタートをいたしました。昨年迎えた市政110周年を記念して、関東7名城の1つである宇都宮城の一部を復元し、新市のシンボルとして、そしてまた市民のシンボルとして、さらには都市防災上の拠点として、宇都宮城址公園を整備したところであります。

宇都宮市では、ふるさとの歴史や文化を守りながら災害に強く、市民が安心して暮らせる安全安心なまちづくりに取り組んでいる中で河川の整備を計画的に進めるとともに、この3月には鬼怒川および田川の洪水ハザードマップを作成し、これからの出水期に備え、市民に周知徹底を図るなど、ソフト対策にも力を入れているところであります。このハザードマップは会場のロビーに展示をしておりますので、後ほどご覧いただければ幸いです。

ここで明日の現地研修コースの1つでもありますが、中心市街地を流れる釜川についてご紹介をいたします。この釜川は、会場のすぐ西側を南北に流れる総延長7.3キロメートルの1級河川であります。流域の市街地開発に伴い昭和50年代まで宇都宮名物の雷とともに氾濫を繰り返してまいりました。しかし国や県など関係機関のご協力のもと、河川改修を進

め、平成3年に全国初の2層構造河川として生まれ変わり、以降氾濫は二度と起こらなくなりました。特に市中心部の1.9キロメートル区間につきましては、下段部分をトンネル河川とし、上段水路部分には親水的な環境整備を施すなど、現在では広く市民の皆様方に親しまれる水辺となっております。本市では、今後とも市民の皆様にとって住みやすいまち、そして住み続けたいまちとなるようまちづくりに取り組んでまいりますので、ぜひ皆様方のご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

大会の終了後は、ただ今ご紹介をさせていただきました釜川の散策、そして宇都宮の名物でありますギョウザ、またジャズを聞きながらのカクテルなども楽しんでいただければと思います。カクテルは世界的な大会でも優勝者、そして全国大会でも多くの優勝者をもっとも多く輩出してる市でございます。ぜひお楽しみをいただきたいと思っております。

結びに、今回の治水大会が実り多い大会となりますとともに、皆様方のますますのご発展とご活躍を心からご祈念を申し上げ、ご挨拶といたします。

来賓祝辞



国土交通大臣政務官
衆議院議員

吉田六左工門

只今ご紹介をいただきました吉田六左工門であります。私は大河、信濃川、阿賀野川、この両川が悠々海へ、日本海へ入るその河口、新潟市が出身地であります。それでは祝辞を述べさせていただきます。

本日、ここに平成19年度全国治水大会が開催されるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。ご列席の皆様には、平素から国土交通省政策の推進につきまして多大なるご支援、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

ご承知のとおり、わが国は地理的条件や気象的条件から洪水、地震などの自然災害を受けやすい環境にあり、全国各地で毎年のように大きな災害に見舞

われております。また地球規模の環境変化によって世界各地でも大雨、大干ばつなどの異常気象が多発しており、21世紀の大きな問題として懸念されております。昨年は、7月豪雨により中部地方、北九州地方を中心に全国各地で甚大な災害が発生いたしました。また今年に入り、四国地方では渇水により取水制限が行われております。

自然災害から国民の生命と財産を守り、活力ある経済社会と生活環境の基盤となる安全で安心できる国土づくりを進めていくこと、一言で言えば減災が国土交通行政の最優先課題であります。住民の方々が一刻も早く安心して生活ができるよう、国土交通省では地域の復興と再度災害の防止に全力を挙げて取り組んでいるところであります。

厳しい財政状況を背景に、今年度も諸々の改革の議論がされているところですが、改革はまず第1に、それぞれの地域の治水の現状をきちんと踏まえたものでなければなりません。第2に、21世紀の重大課題である気象変動の状況を確実に突き止め、これらによる自然災害から国民の生命と財産を守るという安全安心の国土づくりに重点を置いたものとしなければなりません。そして第3に、国と地方がしっかりとスクラムを組み、機能的に対処していけるような仕組みを確保していかなければなりません。

今後とも国土交通省といたしましては、豊かな生活環境と美しい自然環境が調和した、安全で活力ある経済社会を実現するため治水施設の整備を促進するとともに、ハザードマップの整備や避難態勢の構築などハード、ソフト両面から整備を計画的、重点的に推進してまいります所存であります。なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本日、全国各地の治水事業に関わる方々が一堂に会され、治水大会が開催されますことは誠に意義深いことであり、皆様の貴重なご意見を今後の施策に十分反映させ、国民の安全安心の向上に努めてまいりたいと考えております。

終わりに、本日ご列席の皆様への治水事業に対するご尽力に対して改めて敬意を表しますとともに、今後ますますのご発展とご健勝を心からお祈りいたしまして、私のお祝いの言葉といたします。



農林水産副大臣
参議院議員

国井正幸

皆さんこんにちは。ご紹介賜りました参議院議員の国井正幸でございます。栃木県選出国會議員、衆参与野党合わせて13人おるわけでございますが、ご指名でございますので、代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

平成19年度の全国治水大会が栃木県宇都宮市で、多くの皆様のご出席をいただきまして、こうして盛大に開催できましたことを地元の国會議員を代表して、心から歓迎を申し上げますと同時に、心からお祝いを申し上げたいと思います。

これまでお話しありましたようにですね、古来から「水を治める者は国を治むる」ということで、治水事業は国家の安寧を図るために極めて重大な事業であることは、論を待たないところでございます。どうぞそういう意味では今、異常気象が続いておるわけでございます。洪水が多発するという地域があると同時に異常渇水があると、こういう状況でございます。

この水というものをしっかり上手に利用する利水事業を含めて、治水というのが今、国民生活の安定のために極めて重要だというふうに認識をいたしております。国家財政も大変厳しい、地方財政も厳しいわけでありましてけれども、このやはり治水あるいは利水という事業については、国家行政あるいは地方行政の要として、しっかりと位置づけることが必要だろうというふうに思います。そういう意味で、私どもも吉田六左エ門先生とともども与党の立場でこの予算をしっかりと確保するように今後とも努めていきたいと、このように考えておるところでございます。

どうぞ関係者の皆さんにおかれましても、この治水事業の重要性をさらに認識をされ、より効率のいい事業が全国各地で執行されまして、国民生活の安定反映に一層の寄与をしていただきますことを心からご期待を申し上げ、歓迎を込めてご挨拶にさせていただきます。おめでとうございます。

来賓紹介

— 順不同・敬称略 —

参議院議員

農林水産副大臣 国井正幸

衆議院議員(代理)

船田元 森山眞弓
渡辺喜美 佐藤勉
茂木敏充 遠藤乙彦
西川公也

参議院議員(代理)

谷博之 梁瀬進
矢野哲朗

国土交通大臣政務官

吉田六左エ門

国土交通省関東地方整備局長

中島威夫

国土交通省河川局次長

日比文男

国土交通省河川局治水課長

関克己

国土交通省関東地方整備局河川部長

河崎和明

栃木県議会議長

石坂真一

栃木県議会副議長

栗田城

栃木県議会県土整備委員長

岩崎信

宇都宮市議会副議長

阿久津善一

宇都宮市議会建設委員長

塚原毅繁

独立行政法人水資源機構理事長

青山俊樹

祝電ありがとうございました

— 順不同・敬称略 —

衆議院議員

船田元 森山眞弓
渡辺喜美 佐藤勉
茂木敏充 遠藤乙彦
西川公也 山本有二
塩崎恭久 山本幸三
山本拓 田村憲久
土屋品子 小池百合子
飯島夕雁 石井啓一
上野賢一郎 漆原良夫
小里泰弘 金子恭之
亀井久興 川条志嘉
木村義雄 古賀一成
小島敏男 櫻田義孝

下条みつ	竹本直一
中川昭一	中川秀直
萩原誠司	橋本岳
鳩山邦夫	平口洋
広津素子	松浪健太
松本純	三ツ矢憲生
御法川信英	武藤容治
山中燐子	吉野正芳
鷺尾英一郎	山岡賢次

参議院議員

国井正幸	谷博之
梁瀬進	矢野哲朗
関口昌一	愛知治郎
金田勝年	狩野安
田名部匡省	西島英利
橋本聖子	福本潤一
脇雅史	

栃木県議会議員
 栃木県議会議員
 掛川市長

保母欽一郎
 齋藤孝明
 戸塚進也

意見発表

「水陸萬頃」の大地を未来に



岩手県奥州市長
相原正明

皆さんこんにちは。ご紹介いただきました岩手県奥州市長の相原正明と申します。今日は全国治水大会という大変大きな大会におきまして、意見を発表する場を与えていただきましてありがとうございます。それではパワーポイントを使いながら説明を申し上げ、意見発表とさせていただきます。

それでは最初の画面でございますが、この「水陸万頃の大地を未来に」ということは、私どもよく「水陸萬頃」という言葉を使いますが、これは奈良時代

にですね、古い続日本紀という本がありますがその中に出てきます。私どもこの胆沢の地が「水陸萬頃にして蝦夷(えみし)、(アテルイとかエゾとかの蝦夷ですね)。蝦夷存す、撃ちて取るべし」というふうに、まあ中央政権からみて当時大変豊かで、いずれ征服しなければならない土地という認識があったようでございます。

そこで現在の状況でございますけれども、この胆沢ダムがカバーをいたします、胆沢扇状地という約1万ヘクタールぐらいの大きさになりますが、散居集落といまして一軒一軒が離れ離れに、田園の中に存在しており、島根県の出雲地方とか富山県の砺波地方と並んで、私どもは3大散居集落と表現しております。

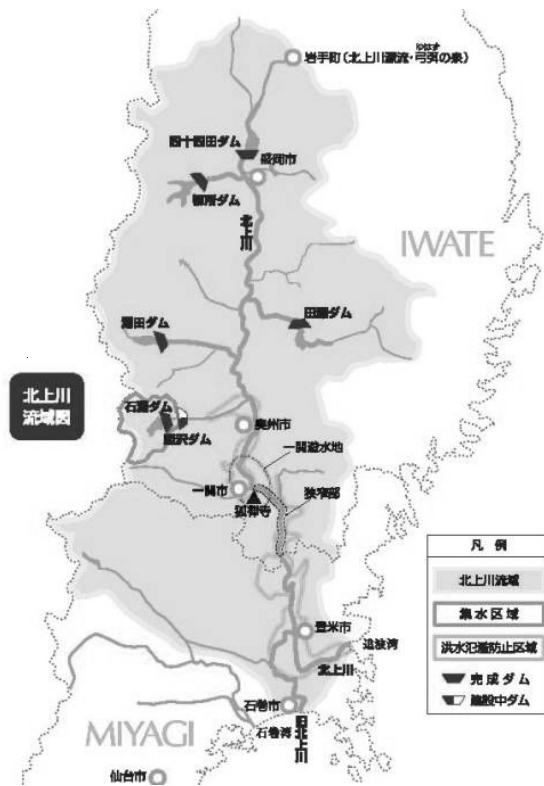
奥州市ですが、いやに大きな名前だと思われると思います。昨年2月の合併によって水沢市、江刺市の2つの市が、そして前沢町、胆沢町、衣川村という2市2町1村の合併で人口が13万になりました。東北地方では15番目、岩手県では2番目の人口規模になったところでございます。

そこで胆沢ダムに関する現地の状況ですが、胆沢扇状地とって見るからにそういう形を成しております。この北上川は北から南に流れる川でございますが、これに沿って東北新幹線、高速自動車道、それらが通っているというような地形でございます。左手の方が次第に高くなっておりまして焼石連峰、そして秋田県の方に抜けるとこういう地形でございます。

この地域は、現在平泉の世界文化遺産登録を目指して、国内としては石見銀山の次ですが、今一所懸命やっている地域でございまして、平泉の町が私どもの奥州市のすぐ南側に隣接をしている場所でございます。

さきほど「水陸萬頃」と申し上げましたけれども、古来歴史上ですね、この東北地方、東日本では歴史の表舞台にもなっているところでありまして、前九年の役、後三年の役という教科書にも出てくるように、ここの中尊寺、毛越寺は奥州藤原文化が華開いた場所でもございます。

私ども奥州市の中心部が水沢区ですけれども、かつての水沢市ですが、そこには幕末の高野長英、それからずっと時代が後の明治、大正になりますけれども後藤新平、斎藤實という郷土の3偉人がおります。後藤新平は東京市長とか南満鉄、満州鉄道の総裁とか大臣を歴任しておりますが、今年が生誕150



胆沢ダムの位置

周年にあたっております。斎藤實は、海軍軍人から総理大臣にまでなった人で、この人は来年150年ということで、この3人が水沢区の吉小路という小路、1つの小さな地域からそろって出ているんですね。その辺、私どもは郷土の誇りに思っております。

それでは胆沢ダムの建設の経緯に進めてまいります。なお私は地元の市長として、胆沢ダムの建設促進の会長でもありますし、現在推されまして東北6県、東北地方の直轄ダムの事業促進連絡協議会会長を務めさせていただいております。

この胆沢ダムは、岩手県南といっても北上川、全国第5位の長さの川ですけれども、この川に戦後間もなく5つのダムを建設するという5大ダム構想がありまして、この私どもの胆沢ダム、前身は石淵ダムで今も石淵ダムがあり間もなく水没しますが、この石淵ダムがそのトップを切って、昭和28年に建設をされたという経過がございます。この石淵ダムを水没させる形で新しく胆沢ダムを建設する。そうでないとこの扇状地はとても水が足りないということでございます。

今から500年以上前に造られた旧穴山堰という、非常に古いわゆる用水路があります。さきほどの地形からいって胆沢川が西から東に流れております。ところが胆沢川は扇状地の北の端の方であって、

全体を潤すためには人力によってこういった用水路を南へ掘らなければならなかったという歴史がございます。

これは一番古いものですが、そのほかにも4つの葦名堰とか寿安堰とかありまして、それが近年までこの地を潤す重要な用水路になっていたということです。これは現在もあります円筒分土工といって水が上の方から流れてきて、この分土工を通じてまず表に出てきてそして周りに流れ落ちるわけです。流れ落ちたさきが複数に分かれておいて、均等に水が流れるということを誰もが納得する形でやろうという、これ知恵ですね。これによって水争いがなくなったと言われております。これは日本一の円筒分土工という相当大きな規模のものでございます。



水の配分量が一目で分かる「円筒分土工」

さきほど申し上げてきました石淵ダムは、昭和28年に建設されもう50年以上経過しており、間もなく水没しますが、この石淵ダムができたときに水没した方々が、このダムサイトのすぐ下流に集落を作っておりました。ところが今度、また胆沢ダムで水没するという2回も水没に遭う人たちが出てきているわけです。その人たちはほとんどいづれかすべて移転は完了しております。したがって準備はできている状態でございます。

なぜこの石淵ダムだけでは間に合わないかということですが、貯水容量が小さくて2、3年に1回は渇水に見舞われてしまうということです。ダムの水が底を突いたときに「番水」といって、みんなで取り決めをして、とにかく水を順番に流れるようにする。そうでないと稲がまいってしまうということです。ですから最近まで、嘘のような話ですが、田んぼに出て真夜中までずっと寝ずの番を

して自分のところの水が抜かれないように、あるいはある程度水を取れるように番をしたということです。ごく最近まで続いているところでございます。

それでこういうふうには水が不足しているものから、上水道普及率、下水道普及率が全国平均からみて低い状況でございます。

また一方、当地域は大変な水害常襲地帯でした。これは戦後間もなくの22年、23年ですが、23年は私が生まれて半年後の話ですけれども、このアイオン台風で北上川は大変な甚大な被害を受けております。

最近におきましても、まったくなくなったわけではございませんで、平成10年、14年に大きな災害が発生しております。なかでも14年7月の台風6号では、奥州市よりもっと南の方になりますけれども、北上川と砂鉄川の合流点の被害が非常に大きかった。今合併でなくなりましたが、旧東山町というところが、役場まで浸水して相当な被害にあっております。



北上川の水害（14年7月台風6号）

このようなことで長年運動を続けまして、ようやく昭和58年に新しいダムを造ろうという動きになったところであります。胆沢ダムは多目的ダムですが、まず治水、それから利水、農業用水ですね。そして水道用水ということで市町村の企業団を作って、今受け皿づくりをしております。それから発電もありまして、電源開発とか県の企業局がこの発電を担当いたします。そして維持流量を確保する。

ダムにはいろんな工法があるわけですが、この胆沢ダムはロックフィルダム方式で、日本最大級でトップの3グループに入っているということでございます。昨年10月の晴れたいい天気の日で定礎式を

行うことができました。おかげさまで国の予算も順調に配置をしていただいております。現在この堤体盛り立てが約40%になっており、最盛期を迎えて順調に進んでおります。

ダムの現在の様子ですが、展望台がすぐ近くにありますので、秋田に抜ける国道もすぐ近くを走っているものですから、そこからの眺めが素晴らしいということで、今一大観光スポットになっている状況でございます。一方でやっぱりダムは、ある程度この自然の状態に手を入れるわけですから、この22世紀のブナの森づくりといったような植林活動、それから文化遺跡が次々と発見されていることでもありまして、そういう保存をしっかりとやっているという状況でございます。

それからダム学習館を作っていただいております。ここでダムそのもののことはもとより周辺の自然環境、あるいは文化遺跡、そういったことについての展示もしていただいております。6年間で10万人来客があったということでございます。

それから今、国のこの事業の一環として「胆沢ダム周辺整備のあり方研究会」を開催していただいております。要するにダム周辺整備で、国が実施するもの、県が実施するもの、市が実施するもの、民間がやるもの。これを今、中身を詰めていただいております。もちろんこれはそれぞれ予算がかかりますので簡単ではございませんが、こういうことが地域の信頼を得て、一定の評価をいただいているところでございます。



胆沢ダム：19年5月16日現在の進捗状況

ここからさきは、このダムの早期完成を願い気持ちが、皆様方と同じでございますけれども、私どもの思いをお話しさせていただきたいと思っております。

現在、全国的にみると洪水被害が後を絶たない。あるいは水不足で、今年も全国的には取水制限が行われているところがある。そういう意味では本当に、まだまだ整備が急がれる状態だと基本的に思っております。

そういった中で、私どものこの胆沢ダムについては、2度の水没がありました。逆にいうと2度の水没が理解され支持されて、このダムに対する理解と評価があったということでございます。地元におきましては、この石淵ダムに対して「ありがたい」という思い、治水と利水双方でその評価は極めて高くです。そういった面で今回の胆沢ダムの構想についても、十分な理解と支持を得ているというふうに思っております。やはり地元に住んでいる人だけではなく、私ども奥州市全体、あるいは岩手県全体、ひいては全国的にこういったダムの必要性、有効性、あるいはその自然と調和した形でのブナの植林、あるいはこの文化財が出てきたときはきっちりとそれを保存管理していくというような姿勢、そういったことが積み重ねられることによって、この支持が広がって「やっぱりダムは必要だし、早く造らなきゃいけない」ということになってくるんだと思います。

若干ダムから広がった話になりますが、私ども平泉の歴史遺産の中で、柳之御所というのがあって、そこを避けるように国道、バイパスを設計変更した、進路を変更したということが全国的にも知られております。今回また大変なご英断をいただいて、このすぐ平泉の北側に衣川という川がありますが、その川の流れを若干変えてまで、関連の遺跡、遺産を保存するということが決まりました。これも大変高い評価を受けているところでございます。こういった公共事業に対する相当なる評価、信頼これが大事でありますし、現実にそういう実績が積み重ねられているというふうに思っているところでございます。

改めて私どもといたしましては、かつて石淵ダムができたときにすぐ地元がそれを讃える歌として、「照れば干魃、曇れば出水、それも昔の語り草、見れや自慢の石淵ダムは、伸びる胆沢の底力」と。これが小唄として歌い継がれてきたということもございます。

このように本当にダムとともに、地域が振興してきたという歴史を持っておりまして、さらに平成25年の完成に向かって、一丸となって取り組んでいるところでございます。おそらく全国各地でこうし

た早期完成を望まれるところが多いわけですので、そういった面で、改めてこのダムの早期完成を心から願う次第でございます。

どうもご清聴ありがとうございました。

地域住民の同意で進める 「波介川河口導流事業」



高知県土佐市長

森田 康生

皆さんこんにちは。本日は全国治水大会におきまして、このような貴重な意見発表の場をいただきまして、誠にありがとうございます。私は只今ご紹介いただきましたように、平成16年度より四国治水期成同盟連合会の会長を務めさせていただいております。高知県土佐市の森田康生でございます。

さて皆さん方もご承知の通り、四国地方は大変急峻な山地が多く、また地質が大変脆弱であるとともに、台風の常襲地帯として大変災害が起りやすい自然条件下にあります。

平成16年に日本に上陸しました台風10個のうち、6個までが四国に上陸をしております。この台風の影響によって、四国各地におきまして約5万2千棟の家屋浸水が発生し、激甚な被害が発生いたしました。また翌平成17年におきましても本土に3個の台風が上陸し、その影響で2年連続して浸水被害や土砂災害に見舞われております。

このスライドは平成10年の高知豪雨災害でございます。左側の国分川と右側の舟入川の中州となっている大津、高須地区は、ほとんどの家屋が床上浸水となりまして、汚泥が地域全体を覆っておる状況でございます。続く平成13年の高知西南豪雨災害では、県西部の土佐清水市、大月町などで甚大な被害となり、数年ごとに起こる甚大な被害に常日頃より悩まされている状況でございます。ただこの西南地区の集中豪雨のときには、土佐清水の西村市長さんが

言っておられました、「被害者をただの1人も出さなかった。このことは地域の連携、特に隣のお年寄りのおじいさんはどこの部屋で寝てる、そういうような状況を皆さんが十二分に熟知しておった。いわば自主防災組織のそうした大きな成果ではなかったらどうか」。このように話しておられました。

高知県中央部を流れる仁淀川下流域においても、同様に各地で多大の被害を被り、住民の苦労は想像を絶する状況でございました。このような状況ですので、四国地方の1人当たりの水害による被害額は全国平均の約4倍となっており、全国の他の地域と比較をしましても被害額が突出しているにもかかわらず、河川整備事業や防災対策に対する予算額が十分でないことは、私どもといたしましては誠に憂慮に堪えないものがございます。

このスライドは国道56号線が水没しまして、県都から西南地区に行く幹線道路が通行止めを余儀なくされたという状況であります。

また四国の気象状況は、四国山脈を境に南と北とで大きく異なり、北側の瀬戸内海側においてはたびたび洪水に悩まされており、特に平成17年には四国最大の利水容量の17,300万トンを持つ早明浦ダムが2度にわたって底をつき、長期にわたり取水制限を余儀なくされ、地域の人々の日常生活や経済活動に

計り知れない被害を与えております。こうした洪水状況の中、早明浦ダム建設でダム湖に沈みました大川村の旧庁舎が確認できるような状況も、皆様テレビやあるいは新聞などの報道でご覧いただいたことであろうかと思えます。こうした異常事態ともいえる洪水状況もあるかと思えば、平成17年の台風14号の襲来によって、四国の水がめである早明浦ダムの貯水量が0%から一晩にして100%まで回復したほどの想像もつかない集中豪雨もございました。

また今年も、四国各地におきまして洪水状況が続いておりまして、日常的に経済活動や市民、住民生活に大きな影響を与えております。

私たちのまち土佐市は高知県のほぼ中央部にあり、西日本最高峰1,982メートルの石鎚山を源とする清流仁淀川の最下流域に位置し、仁淀川右岸に広がる高岡平野に小都市を形成し、北側および西側は小さな山に囲まれ、南部においては黒潮躍る太平洋に面し、市域面積91.59平方キロメートル、人口約3万人の地方中小都市でございます。

この仁淀川は、市の東部を流れる四国第3の河川で、流域面積1,560平方キロメートル、流路延長124キロメートル、そして上流域の山地は、さきほど申し上げましたように急峻な地形でありまして、中流域には早明浦ダムに次ぐ四国第2の規模を誇る多目



【平成17年9月1日】貯水率0.5%

台風14号により、一気に貯水率100%へ

約600mmの雨が降れば0%から100%に変わります。

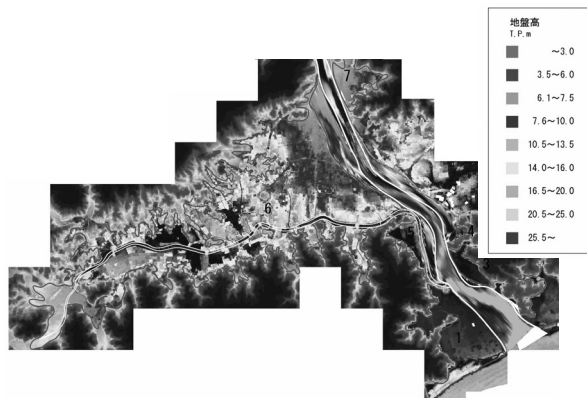
【平成17年9月8日】貯水率100%



早明浦ダム洪水状況

的ダム大渡ダムをはじめとして治水、電源開発などの施設も多く設置されております。平時には緑と自然豊かな河川としまして、これまで国の水質調査でも全国1級河川の中で第4位に選ばれたほど水質がよく、また夏の水辺利用者数も平成15年度には全国第3位となるなど、流域住民はもとより流域外の多くの人たちにも親しみ深い河川として楽しんでいただいております。

しかしこのように親しまれている河川も、台風や集中豪雨のときには大きな脅威となる場合もございます。また私たち土佐市には仁淀川水系の1次支川波介川があります。この波介川は、低奥型地形で上流ほど地盤が低くなるという特殊な河川であります。仁淀川河口から2.2キロ地点で仁淀川に合流する河川で、流域面積73.3平方キロメートル、流路延長19キロメートルの河川であります。



50年8月洪水による浸水

低奥地の地形（波介川流域）

昭和50年8月の猛烈な台風5号により仁淀川が大氾濫となり、破堤及び漏水7カ所、死者6名、重軽傷者74名、浸水面積1,590ヘクタール、床上床下浸水家屋4,355戸にも及ぶ、土佐市始まって以来の未曾有の大水害となりました。またそれに伴い同年河川激甚災害対策特別緊急事業が採択されましたが、さらなる抜本的対策が必要とされ、現在波介川河口導流事業を進めていただいております。

この波介川河口導流事業は、現在の仁淀川との合流点を河口まで延長して、洪水時に仁淀川からの逆流を防ぎ、波介川の洪水を安全に流下させ、内水被害を大幅に軽減させることを目的とした改修事業でございます。

しかしながら起業地は、土佐市でも最も優良な施設園芸地であったため、計画時より地元住民の猛烈

な反対運動が起りました。これまで10数年の長い期間に亘りまして、私たちは地元住民との粘り強い協議を重ねてきました結果、地元住民の皆さんのご理解を得まして平成13年6月に地元、国、県、土佐市の4者で事業の容認に関する覚書および確認書が交わされ、さらに平成16年2月には工事着工に関する覚書および地元新居地区、地域振興計画の実現に向けた確認書を締結させていただきました。その結果、計画から実に37年を経てこの事業は大きく進展がみられまして、現在工事を鋭意進めていただいております。さらに本年度より、床上浸水対策特別緊急事業として新規採択を国土交通省の方からいただき、早期完成に向けて現在取り組んでいただいております。



50年台風5号土佐市内の浸水状況



波介川河口導流事業（24年完成の実現）

しかし波介川河口導流事業は、まだ改修工事中ですので、波介川流域の奥低型地形というこの宿命的な地形特性によって、これまで同様洪水時には仁淀川本川の水位が高くなれば逆流するため、波介川の水が流下できず、近年浸水被害が頻発し、平成16年には台風23号の影響により流域住民160世帯、471名

に対して避難勧告を発令しました。そしてまた同17年にも台風14号の影響により2,800世帯、7,700名に対して2年連続して避難勧告を発令するという異常な状況が続いておりまして、市勢発展に重大な支障となっております。

このスライドは平成17年の台風14号の影響により、一晩にして私どもの土佐市新居地区の海岸線が確認できないほど、大量の流木、ごみが仁淀川河口に流れ込みました。

私は、常に治水事業も大変重要で取り組んでいかなければなりません、山林の荒廃にも大いに注目し、手をかけていかなければならないということ、やはり緑を将来に向けて増やしていくということも大変重要であろうと思っています。現状の山林の荒廃を憂い、森林の環境保全事業への取り組みもまた重要ではないだろうか、私は常に認識をいたしております。

どうか皆さん方におかれまして、このことも大変重要な事業の1つであることを広くご認識していただければ幸いです。

私たちは、常に住民が安心して暮らせる安全なまちづくりのため、防災対策が最重要課題であることを十分認識をいたしまして、全力を傾注し取り組まなければならない大きな責務がございます。

治水事業は国土保全の基本であり、国民の生命、財産を守る最も根幹的な施策でありますので、国の責務として強力に推進していただかなければなりません。そのためには、全国的にまだまだ遅れております治水事業の大幅な予算の確保を、ここにお集まりの皆様方と一丸となって、国土交通省並びにそれぞれの地域での選出の国会議員の先生方に、強く要請していただかなければならないことを申し上げまして、私の意見発表とさせていただきます。どうもご清聴ありがとうございました。

治水事業の視点

川と共に元気な地域を目指して



国土交通省河川局

治水課長 関 克己

只今ご紹介をいただきました国土交通省河川局治水課長の関でございます。本日は、全国治水大会が盛大に開催されまして、誠におめでとうございます。私は治水事業の視点というタイトルをいただきました。治水に関する最近の状況あるいは今後の取り組みについてご紹介をさせていただきます。

最近、全国で非常に多くの災害が、激甚な水害が頻発しております。私はこのような厳しい状況を乗り越え、川と共に元気な地域を目指していこうとこういった観点で、最近の状況をまとめてみました。

そう言いながらも、まず最初に「災」という漢字を出させていただきました。わが国は非常に自然災害のデパートでございます、種類からしても規模からしてもというものも、欧米の先進諸国と比べても圧倒的に多いわけでございます。

その日本における災害の「災」の字は、実は火と水からなりたっております。もちろん火は火事でございますし、水は水害であります。火事を消すのは水をもって治め、水害を治めるのは何で治めたらいいのか。やはり今日お集まりの皆様方とりわけ市町村の皆様とともに、まさに治水ということは今後もさらに進めていく。そういうことをこの字は示しているのではないかと考えております。

1. 激甚な水害の頻発～地球温暖化と気候変動～

最近、本当に激甚な水害が頻発しております。これは明治から最近までの雨の降り方の変動を示しております。平均的に言えば災害、豪雨が増えておりますが、雨の降り方一年間を通した雨の量は少しずつ減ってきている。一方で雨の降り方の幅が、振

気候変動により100年後には海面が最大約60cm上昇するおそれ

気象変動に関する政府間パネル(IPCC)第4次評価報告書 第1作業部会*

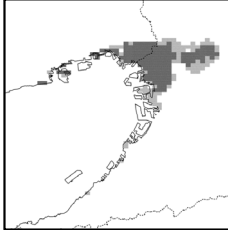
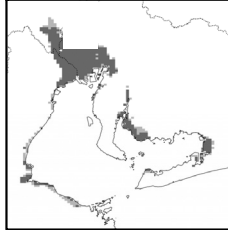
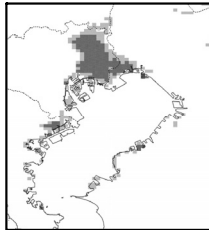
- ・人為起源の温室効果ガスの増加が温暖化の原因とほぼ断定
- ・最近12年は1850年以降で最も温暖な12年
- ・21世紀末の平均気温上昇と平均海面水位上昇
- ・2030年までは、社会シナリオによらず10年当たり0.2℃の昇温を予測
- ・熱帯低気圧の強度は強まると予測
- ・北極海の晩夏における海水が、21世紀後半までにほぼ完全に消滅するとの予測もある
- ・大気中の二酸化炭素濃度上昇により、海洋の酸性化が進むと予測

	環境の保全と経済の発展が地球規模で両立する社会	化石エネルギー源を重視しつつ高い経済成長を実現する社会
気温上昇	約1.8℃ (1.1℃～2.9℃)	約4.0℃ (2.4℃～6.4℃)
海面上昇	18～38cm	26～59cm

※IPCC第4次評価報告書第1作業部会第10回会合(H19.1.29～2.1)で承認

平均海面が59cm上昇した場合、三大湾(東京湾、伊勢湾、大阪湾)のゼロメートル地帯の面積、人口は5割増加

東京湾(横浜市～千葉市) 伊勢湾(川越町～東海市) 大阪湾(芦屋市～大阪市)



	現状	海面上昇後	倍率
面積(km ²)	577	879	1.5
人口(万人)	404	593	1.5

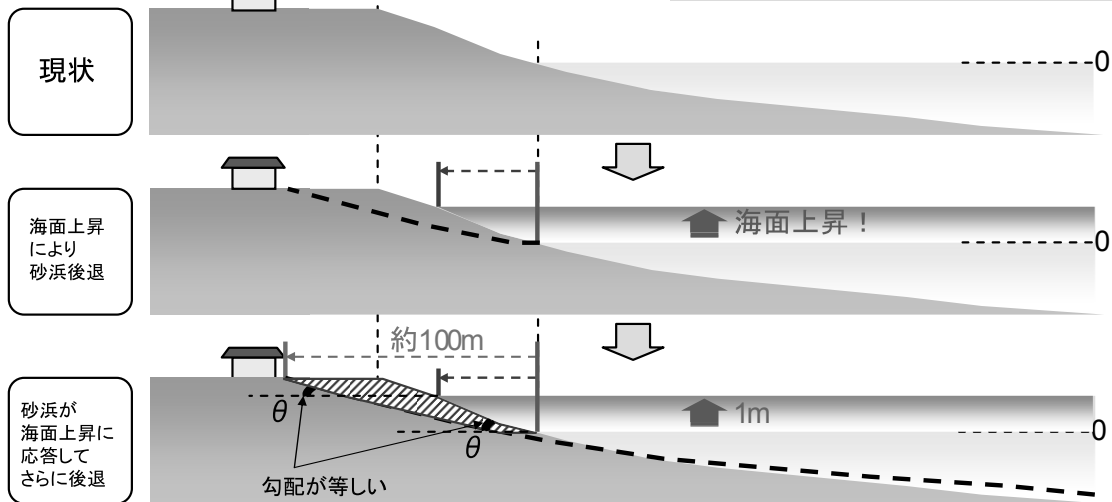
※国土数値情報をもとに作成
※3次メッシュ(1km×1km)の標高情報が潮位を下回るものを図示。面積、人口の集計は3次メッシュデータにより行っている
※河川・湖沼等の水面の面積については含まない
※海面が1m上昇した場合の面積、人口の60%分を増分として計算

176万人(現状) 333万人(海面上昇) 90万人(現状) 126万人(海面上昇後) 138万人(現状) 260万人(海面上昇後)

- ・温暖化による海面上昇や豪雨の激化に備え、海岸や河川下流部の高潮対策の強化、河川の治水安全度の向上が必要

海面上昇に伴う砂浜の侵食

砂浜の海浜縦断地形に対する応答



海浜縦断地形は、海面が上昇すると上昇後の水位に対する平衡地形に向かって変化するため、水位上昇による静的な後退分以上に砂浜は侵食され、汀線が後退すると考えられる。

海面上昇と平均後退距離、浸食面積率の関係

海面上昇(m)	0.3	0.65	1
平均後退距離(m)	30.05	65.4	101.04
浸食面積率(%)	56.6	81.7	90.3

三村信男・幾世橋慎・井上馨子:「砂浜に対する海面上昇の影響評価」より河川局治水課作成

幅が非常に大きくなってきています。まあ人によっては、気象が狂暴化してきているなんておっしゃる方もおられます。

これは1時間に50ミリ、あるいは100ミリという雨が降る頻度を示しておりますが、50ミリこれは大変な雨でございます。大体全国の中小河川、ほとんどのところはまだこの目標を目指して改修途上にあるわけですが、ほとんどのところで目標達成はまだ先です。その50ミリの降雨の頻度が実に5割増し、200回が300回、さらには100ミリの雨が降ればほとんどの中小河川は氾濫をするということになりますが、その頻度も倍以上になってきているということを、如実にこのグラフが示しております。

また最近世界中で深刻に受け止められている地球環境問題。これに関しましてIPCC、国際的な研究グループが公表したものが最近出ておりまして、特に海面が60センチも上昇する可能性があるというふうに言われております。

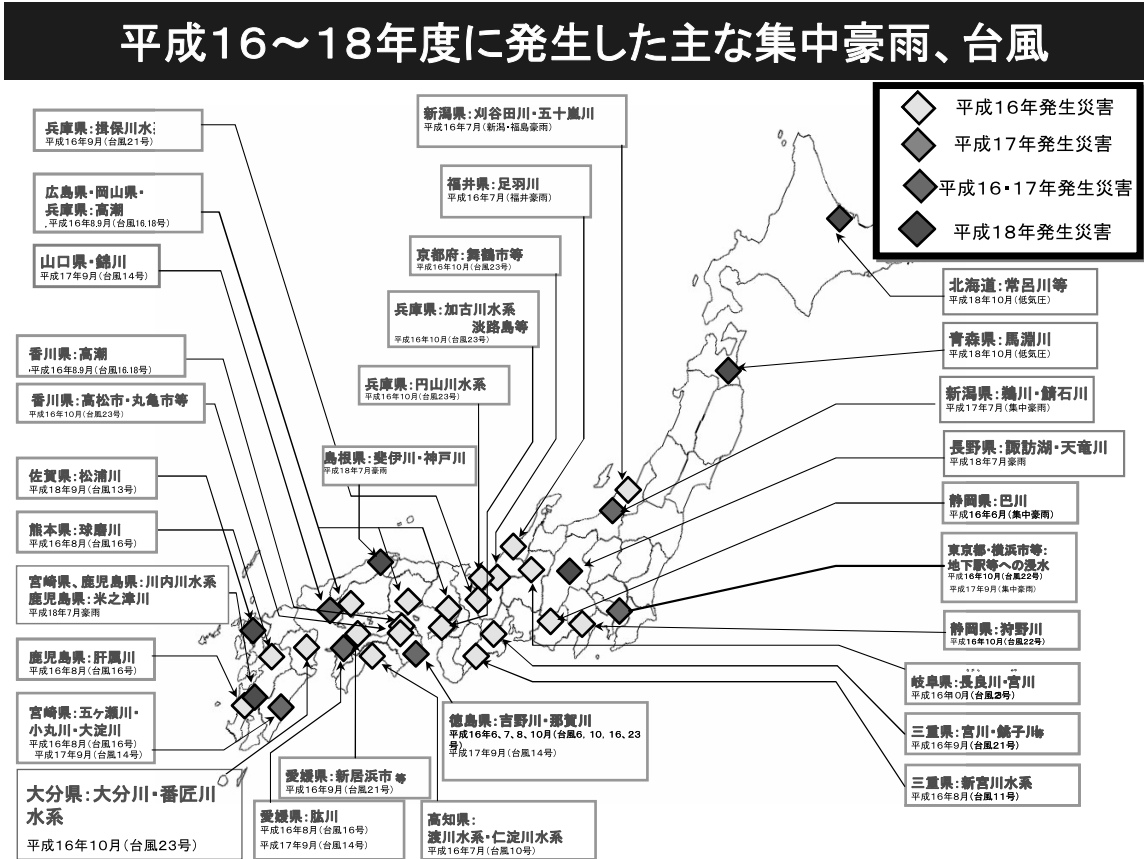
その場合、日本ではどんなことになるのか。現在オランダとかバングラデシュとか、国土の多くがいわゆる海面下にある国。それは人ごとのように私どもも感じているところですが、実は日本でも東京、名古屋、大阪、この中心部の海面下に多くの人が住

み、また資産が集中しております。実は60センチも海面が上昇してしまえば、この面積・人口がどちらも5割も増えてしまう大変な状況でございます。

すでにオランダでは、海面上昇を見越して重要な地域の堤防を50センチほど、高上げすることを前提に事業を進めているそうです。さらにオランダでは、こういった新しい地球環境問題についての報告を受けて、さらにこの堤防を上げていくということについて、現在検討を進めておられるようです。日本ではまだまだこれからというところでございます。

またこれは実際に高潮によって、海が暴れ始めているということございまして、有名なイタリアの水の都ベニスでございます。これが1900年から2000年、約100年間で実に水に浸かった回数が大体10回までいってなかったものが、ここ数年10年ぐらいで急激に増えてきており40回、そして100回とちょっと水に浸かっている、そういう状況になってございます。

これは日本の宮島でございます。日本三景の一つ宮島ですが、同じように1989年は大体1回しか浸からない、それが2000年に入りますと12回、22回。わが国でもやはりこういう被害が頻発してきているということでございます。これは正直言って、ちょっ



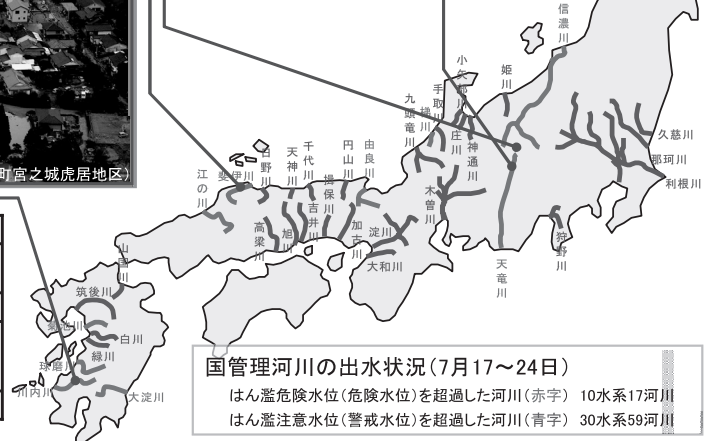
国管理河川で、はん濫危険水位を17河川、はん濫注意水位を59河川で超過



主な被害箇所

水系名	河川名	市町村名	浸水等被害戸数
天竜川	諏訪湖	長野県諏訪市、 下諏訪町、岡谷市	約1700戸
斐伊川	大橋川	島根県松江市	約1700戸
川内川	川内川	鹿児島県さつま町、 湧水町、大口市、 菱刈町、えびの市	約2300戸 流出等家屋損壊 約30戸
米ノ津川	米ノ津川	鹿児島県出水市	約1300戸

※浸水被害等は平成18年8月7日現在河川局調べ



とショッキングでございました。

昨年、茨城県で高潮が続きました。このときに茨城の海岸の砂浜が一気になくなりました。これを茨城大学の先生が解析をされまして、仮に海面が1メートル上がった場合、日本の海岸線がどのようになるのかということを研究され、砂浜100メートル以上あるところは残りますが、幅が100メートル以内ですと砂浜がみんななくなってしまいます。わが国土にとって、そういう意味では海面上昇というのは、三大都市圏でリスクが高まるということだけではなく、国土そのものをどう考えていくのかという警鐘を鳴らされた論文を発表されたとうけとめております。

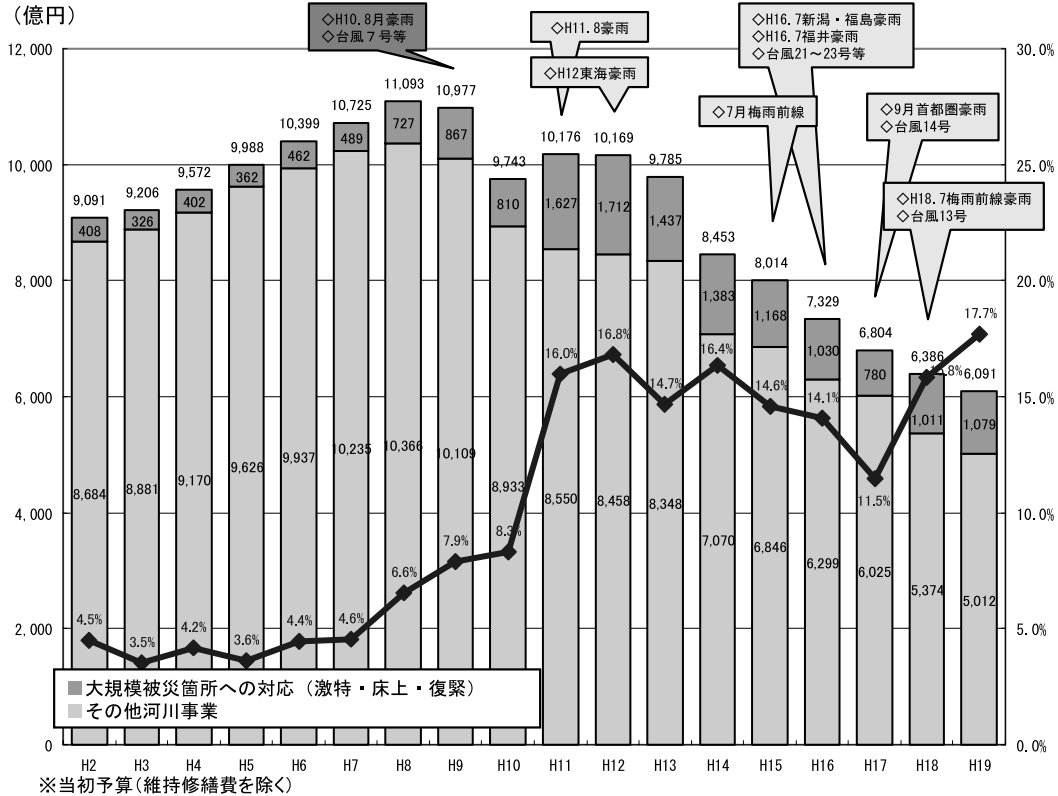
また平成16年から18年の3年間、直近の3年間の災害が発生した地域をこの地図に撮してございます。本当に全国、特に西日本。長野、新潟、静岡、この地域より西の地域では満遍なく水害が発生しているという状況をご覧いただけたと思います。昨年、長野、島根、鹿児島島の3県を中心に、異常災害、異常気象といいますが、これだけ続きますと、これが日常ということにもなってきますが、本当に大変な雨が降りまして激甚な災害が発生しております。

特に最近気をつけなければならないのは、平成16年

には200人を超える方が亡くなっておりませんが、一時治水対策の進展によって亡くなる方は随分減りました。被害は多くなっても亡くなる方は減ってきておりましたが、また最近亡くなる方が増えてきております。これはやはり地域社会が高齢化している、独居の方がおられる、あるいは地下施設というもの全国に広まってきているというような社会構造の変化が、同じ水害を受けても被害を激甚化させる、あるいは亡くなる方を増やしているという、そういう災害自身の変化だということを表していると思っております。

長野県では3日間で1カ月分、島根でも相当な雨ですし、鹿児島でも本当にすごい雨が降っております。特に鹿児島県のさつま町の水害は、非常に激しいものでありました。川内川と書いて「せんだいがわ」と呼びますが、この写真は川をメインで映していないのはなぜかといいますと、川があふれて町全体を濁流が流れ下ったという災害でございます。逃げ遅れた方も大勢おられました。本当に亡くなられた方がおられなかったのが、不幸中の幸いという状況でした。また天竜川では、国自ら管理している天竜川の堤防が、破堤してしまうという状況も昨年は起きております。

大規模被災箇所への対応は増加傾向にある



2. 治水対策の現状

こういう災害の中で、さきほど土佐市長さんからお話がありましたけれども、これは縦軸の棒グラフは事業費ですが、財政事情を反映して平成10年ぐらいからどんどん縮減され、概ね半分になってきております。予算が減りだした途端に、残念なことに大きな災害が発生しはじめているということでございます。特に16年は、激しい水害が発生しましたけれども、平成10年以降、激甚な災害が頻発しておりまして、この棒グラフの上の方の色が濃いところが激甚な災害対策、発生してしまった災害対策に充てられている予算でございまして、このシェアが平成2年、一桁台で大体4%、3%であったものが、最近では17%、約2割。全体厳しい予算の中で2割を先取りして、災害が発生したところに重点的に予算を回すという状況が続いてきております。残念ながら危険だと分かっている、早く手当てをしなければならぬところに、なかなか予算を回せないというのが現在の実態でございまして。

また一昨日ですか、福井の鯖江市長さんから随分厳しいお話をいただきました。何かと申しますと、これは浅水川と書いて「あそうずがわ」。下流から改修が進んできておりますが、上流はまだ未改修で

す。この間水害を受けまして、地域の皆様から市長さんが厳しいご注文を受けたということです。県が管理をされている区間ですけれども、やはり対策をとったところと、とっていないところの差があまりにも如実に出ていることから、この上流の皆様から市長さんが「なんとか早く進めてほしい」という厳しい意見をいただいたということでございます。こういうお話を私ども全国の多くの市町村長さんからいただいており、少しでも頑張っていかなきゃならないとそういう思いでいるところでございまして。

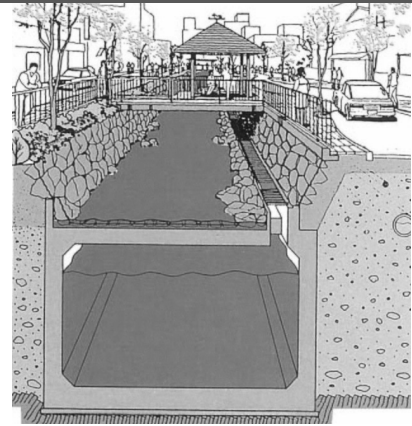
一方で、昨年は堤防が切れた天竜川ですが、36年大水害を受けました。200人を超える方が亡くなった「三六水害」というのがありましたが、同じような雨が降っても昨年は浸水ゼロ。やはり治水というものをやればやっただけの効果は着実に発揮しているということを改めて証明している。同じく島根県でも被害は出ましたが、改修を営々と進めてきたところは、非常に目に見えて被害が減ってきているということでございまして。

これはよく使わせていただくんですが、アメリカのハリケーン・カトリーナ。まだ記憶に新しいところでございまして。カトリーナでニューオーリンズ市では、まだ多くの方が市に戻れない、復旧、復興は

栃木県内の河川（釜川 ～2層構造河川～）



剣橋下流付近



井登橋上流付近



井登橋下流付近



未だ遠いというふうになっております。このときの被害が14兆円。これに対応するための費用が2,200億円。対応しておけばこの被害は防げた。つまり早めに投資しておけば、リターンがなんと2桁も多く戻ってくるということも言えるわけで、事前投資の重要性を本当に如実に示している事例でございます。

日本においても、東海豪雨あるいは福岡における災害と同じ観点で見ますと、やはり東海豪雨では700億円投資しておけば6,000億円の被害が防げた。それから福岡では500億円投資しておけば、約5,000億円の被害が防げた。これらは予算的に厳しいときだからこそ、逆に事前投資をすることによって、トータルとして国の経済を支えていく、そういうことが可能になってくるというふうに思っております。

3. 川まちづくりの推進

一方、川は営々と進めてきた事業によりまして、安全な川も増えてきております。またそういった川は地域のシンボルでもあり、非常に多くの方がそこで安らぎを感じる。そういった川も全国に多くあります。私ども、やはり治水対策と合わせて地域の環境の骨格となる、柱となる川づくりというものも積極的に進めていく必要があると思っております。

堤防がない、いわゆる掘り込み河川においては、工夫することによって木を植えられますし、積極的に木を植えることによって、こういった桜並木を作っていくということも可能になります。

また川に水がないというのは非常に寂しいものです。これは下水道と連携することによって、川に水を取り戻し川にもう一度命を取り戻した、こういったこともあわせて進めていく必要があると思っております。

あるいは、オープンカフェとか、遊歩道の整備といった形で川ににぎわいを取り戻していく。全水連の副会長をされておられる岐阜市の細江市長さんが来ておられますが、岐阜の長良川においても地域の皆様や岐阜市とも相談をさせていただき、まさに観光であり地域のシンボルとしての整備をあわせて進めていただいております。

また川には人々の健康を支える要素もあります。フットパスの整備、あるいは観光ということも大きく担える資源でもあります。千葉県香取市の小野川、この佐原の中心部は非常に水害の多い地域でした。それをこの放水路を利根川に抜くことによって小野川の活用、小野川が地域を支えるという、地域の皆様方と河川を管理する人たちが一緒になって取り組

み、この水郷の地域に多くの観光客を呼び戻すことができるようになったと伺っております。この小野川をふるさとの川事業として整備を進めた結果として、観光客の数がどんどん増えてきている。やはり水の持つ魅力というものを象徴してのではないかと考えております。川は地域にとって大事な資源であります。健康あるいは観光、あるいは環境と、こういった役割をより一層果たせるよう、皆さんとともに進めていかなければならないと考えております。

また今日、この大会が開催されております栃木県内においても、非常に多くの豊かな川があります。多分ご覧になった方もおられると思いますが、この会場のすぐそばに釜川があります。これは昭和56年、

57年ごろは、県庁の前、あるいは市役所の前が洪水に頻繁に襲われるという大変な川でした。それを県の皆様、あるいは宇都宮市の皆さんと一緒に取り組まして、さきほどお話がありましたように2階建ての河川という取り組みをすることによって、現在はまさにこの地域のシンボルの川として、多くの方がこの辺りを散策し、昼も夜も歩かれる、そういった川に生まれ変わっております。

最近の河川を巡る状況をご説明させていただきましたが、本当に安全、安心を求めるとともに、地域にとって誇れるあるいはシンボルとなる、そういった川を皆様とともに目指していきたいと考えております。ご清聴ありがとうございました。

大会決議



栃木県那須町長

佐藤 正 洋

平成10年の那須地方の集中豪雨災害、その折りには国はじめここにいらっしゃる全国の皆様から、大変なお見舞いをいただきまして、ありがとうございました。今はすっかり復興をしまして、明るく暮らしております。その治水事業の大切さを身を持って体験をしました那須町町長の私から、決議案を申し述べさせていただきます。

決 議 (案)

自然災害に強い国土の形成は、「美しい国」実現の大前提である。治水事業は、国民の生命と財産を守る最も根幹的な事業であることから、その重要性はいつの時代にあっても変わらず、「国家百年の計」として、国が責任を持って実施しなければならない。

わが国では、自然災害に対して脆弱な国土条件の中、営々と実施されてきた治水事業により、治水安全度は着実に向上した。しかし、異常気象ともいえる気候変動の影響により、近年、多くの貴重な生命と財産が全国各地で失われており、昨年も、数日間で平年の2ヶ月分の降雨量を上回る豪雨が頻発し、全国で40名を超える死者・行方不明者、1万戸を超える家屋の浸水が発生するなど、自然災害が激化している。

さらに、国連の「気候変動に関する政府間パネル」は、本年まとめた報告書において、地球温暖化が目に見える影響を及ぼし始め、洪水等により、被害が更に拡大する恐れがあると警告している。

このように、国民の生命と財産を守る堤防やダム等の

施設の整備を、これまで以上により強力に推進していかなければならない状況にある。

しかし、この数年の間、治水事業予算は厳しい財政状況を背景に大きく縮減され、被害軽減のための予防的投資が困難となっている。

地域住民やその営みの安全・安心の確保に責務を負うわれわれとしては、こうした後追いつきの対応が続く治水対策の現実に接し、不安を抱かざるを得ない状況にある。

そして、地域経済の発展ひいては国家の繁栄を考えると、治水事業予算の縮減が後世に大いなる禍根を残すと危惧している。

われわれはかかる事態を憂慮し、ここに全国治水大会を開催し、その総意に基づき、21世紀にふさわしい安全で安心な国土が実現するよう、次の事項を国会ならびに政府に対し強く要望する。

記

一、治水事業費は景気対策を行った以前の水準を割り込

み、ピーク時のおよそ半分となっている状況である。国民の生命と財産を守るため、治水事業費の増額を図ること。

一、地域住民が洪水被害に対して不安を抱いている箇所の治水事業を強力に推進し、地域住民やその営みの安全・安心を一刻も早く確保すること。

一、新たに中期的に目指す目標を明確にするとともに、予防的な治水対策に充てる投資を確保し、洪水被害を未然に防止するため、計画的に堤防やダム等の根幹的施設の整備を推進すること。

一、気候変動に伴う海面の上昇に備え、ゼロメートル地

帯における河川堤防の高潮・耐震対策を推進するとともに、安全性点検を踏まえた河川堤防の質的強化を推進すること。

一、市町村が水害時に迅速かつ確かな防災活動や事前準備を実施できるよう、ハザードマップの整備や避難体制構築のための情報提供の充実を推進するとともに、土地利用と一体となった治水対策を推進すること。

以上決議する。

平成19年6月7日

全国治水大会

次期開催地あいさつ



兵庫県県土整備部土木局
河川整備課長

森 脇 康 仁

兵庫県河川整備課長の森脇でございます。ただ今、次回来年度の全国治水大会の開催地といたしまして、兵庫県と決定いただきまして心から感謝を申し上げます。皆さんのお越しをお待ち申し上げます。

ここ3年来をみましても、全国各地で台風や集中豪雨等での甚大な被害をもたらしておりますけれども、わが兵庫県におきましても平成16年の台風23号等で、県下各地で土砂災害や河川の堤防決壊等による洪水被害に多く見舞われております。現在でも激特事業等をはじめ復旧の途上で、その推進に努めているところでございます。

さて兵庫県は日本のほぼ中央に位置し、北は日本海から南は瀬戸内海、太平洋に至る多彩で広大な県土を有しております。あと摂津、播磨、但馬、丹波、淡路と5つの個性あふれる国からなっており、豊かな自然と多様で特色のある風土に恵まれております。

来年度の開催にあたりましては、大会がより有意義となりますよう、今後関係機関の皆様とも準備を

整えて進めていきたいと考えております。

全国治水大会を機会に、兵庫県へのお越しをお待ち申し上げますとともに、多くの皆様方のご出席をお願いいたしまして、次期開催地を代表しての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

閉会のことば



全国治水大会栃木大会
実行委員会副会長
宇都宮市建設部長

津 田 利 幸

只今、ご紹介いただきました宇都宮市建設部長の津田でございます。本日は多くの皆様のご出席をいただき、平成19年度全国治水大会栃木大会が盛会のうちに閉会を迎えることができましたことを厚くお礼申し上げます。また本大会でいろいろと貴重なご意見をいただき、また最近の情勢などについてのお話を頂戴いたしました。本日の成果を十分に踏まえて皆様方、各地域の治水事業のさらなる進展と、ご出席いただきました皆様のご活躍を祈念いたしまして、閉会の言葉といたします。どうもありがとうございました。

特別講演



講師 広瀬久美子 先生
演題 バラ色の人生のために
～暮らしの中の川～

全国治水大会に先立ち、講演会が開かれました。
なお、講演の内容は、割愛させていただきました。

プロフィール

氏名 ひろせ くみこ
出身地 千葉県市川市

略歴

早稲田大学文学部国文学科卒業。
卒業後NHKに入局、アナウンサー室に配属。
テレビ「週刊ボランティア」「平成世の中研究所」
「NHKスペシャル」「きょうの料理」「婦人百科」
「趣味の園芸」など、ラジオ「みんなの茶の間」
「午後のロータリー」「土曜サロン～広瀬久美子の
ラジオワイド」など数多くの番組を担当。同
時に文部省、経済企画庁、総務庁の審議委員を
歴任。
平成12年8月、NHK退職後はフリーに。
現在は、講演、執筆、テレビ、ラジオへの出演と、
環境省「地域温暖化防止のための～環の国くらし
会議」委員、全国社会福祉協議会運営委員、独立
行政法人「国立青年の家」運営委員会委員、ヒュー
マンアニマルボンド学会理事、長野県上伊那郡飯
島町の「ふるさと大使」などで活躍中。
主な著書に「やがて翔く日のために」(スリーエー
ネットワーク社)、「ことば美人は一生の得」(幻
冬舎文庫)、「仕事上手は自由への道」(大和出版)、
「お局さまのひとりごと～スタジオの片隅で～」
(講談社) など多数。

現地研修

大会の翌8日は山間部を中心に小雨となったが、
コースによってはまずまずの天候となり、栃木県内
を5コースのバスに分乗して、治水関連施設の研修
に約200名の者が現地研修に参加しました。

- Aコース 日光砂防事業と二社一寺
- Bコース 鬼怒川上流ダム群連携事業と鬼怒川
溪谷
- Cコース 余笹川改修事業と那須高原
- Dコース 釜川改修事業と陶芸の里
- Eコース 蔵のまちと渡瀬遊水地

いずれのコースも、車中では県職員から事業の概
要説明を聞いた後、現地では事業によって地方整備
局の担当職員にもご説明をいただき、大変有意義な
研修を終えました。



那須町余笹川の概要説明



巴波川河川浄化事業（栃木市）の概要説明

治水議員連盟・都市河川整備促進議員懇談会の合同会議が開催される

平成20年度予算概算要求を間近に控えた6月14日(木)、自由民主党治水議員連盟および都市河川整備促進議員懇談会の合同会議がルポール麹町(麹町会

館)で開催されました。

治水事業に携わるわれわれ関係者にとりましては、大変心強く、その決議文をご紹介します。

治水事業の強力な推進に関する決議

わが国は、自然災害に対して脆弱な国土条件のため、毎年、全国各地において水害が発生し、多くの国民の生命と財産が失われている。

さらに、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、集中豪雨の増加や台風の大型化が懸念されており、自然災害発生危険性が今以上に高くなる可能性がある。

このような国民の安全・安心の確保がままならない状況に対して、早急に対策を講じなければならない。

元来、治水事業は、予防的対策として計画的に実施すべきものだが、全国各地で大規模な水害が頻発し、被災箇所への再度災害防止対策という後追い対策に追われているのが現実である。

以上を踏まえ、治水議員連盟、都市河川整備促進議員懇談会は、次の事項について強く要望する。

一、国民の生命・財産を守るため、大規模水害対策を戦略的・重点的に推進すること。

一、大規模水害が頻発する状況に鑑み、平成20年度治水事業予算について、その必要額の確保を図ること。

一、激特事業等大規模水害の頻発に係わる予算の増大に対応するため、災害対策等緊急事業推進費の適用の拡大を図るとともに、激特事業採択区間での災害復旧関連予算等での対応の拡充を図ること。

以上、決議する。

平成19年6月14日

治水議員連盟会長
都市河川整備促進議員懇談会会長
古賀 誠

〈全水連だより〉

第59回 通常総会を開催

全水連の第59回通常総会は、全国から会員約1,200余名が参加して、次のとおり開催されました。

と き 平成19年6月7日(木) 13:00~

ところ 栃木県総合文化センター

陣内全水連会長が国会の都合により急遽出席できなくなったことにより、会長の指名によって江藤副会長(久留米市長)が議長となり、早速議案の審議に入りました。議案は次のとおりです。

第1号議案 平成18年度事業報告

第2号議案 平成18年度収支決算の承認を求める件

第3号議案 平成19年度事業計画案の承認を求める件

第4号議案 平成19年度収支予算案の承認を求める件

第5号議案 役員改選に伴う就任について承認を求める件

第1号議案から第5号議案まで、いずれも原案の

とおり議決承認されました。議案審議の終了後、新しく選任された役員のうち本日出席されている役員で、理事に就任した西田耕豊石川県治水協会会長(川北町長)が紹介された後、江藤副会長が全役員を代表して挨拶をし、総会を終了いたしました。

江藤副会長の役員代表挨拶



本総会におきまして、副会長就任のご承認をいただきました江藤でございます。

全役員を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

この度の役員改選におきましては、役員交替が3名ございました。前役員の皆様には、長年に亘り当連合会の発展のためにご指導を賜り厚く御礼を

申し上げます。

さてご案内のとおり、平成16年の大水害以来、台風や局地的な集中豪雨の頻発により、毎年全国各地に甚大な被害が発生し、多くの人命と莫大な財産が失われております。特に近年は異常気象ともいわれ、地球規模の気候変動により、異常豪雨の発生が増加する傾向にあります。

当連合会といたしましては、治水関係事業の着実な推進のためにも予算の確保が第一であると考えておりますが、ハード対策と一体となったハザードマップの整備や避難体制の構築のためのソフト対策の必要性を痛感しているところでございます。

今年も間もなく梅雨期に入ります。わが国のこのような現状に対しまして、治水施設の整備が水資源対策と合わせ急務であることは、今更申し上げるまでもございません。

役員一同、当連合会に課せられました使命の重大さを認識し、全力を尽くして参る所存であります。

ご参集の皆様方のなご一層のご支援をお願い申し上げます。

なお、平成19年4月24日および6月4日に開催の評議員会において、新しく選任された役員は次のとおりであります。

任期 平成19年6月1日から平成21年5月31日まで

役 職	前 任 者		再任新任 の別	後 任 者			
	氏 名	公 職 名		氏 名	公 職 名		
会 長	陣内 孝雄	参議院議員	再任	陣内 孝雄	参議院議員		
副 会 長	岩井 國臣	参議院議員	再任	岩井 國臣	参議院議員		
専務理事	瀬戸 孝則	福島市長、東北直轄河川治水期成同盟会連合会会長	再任	瀬戸 孝則	福島市長、東北直轄河川治水期成同盟会連合会会長		
	細江 茂光	岐阜市長、中部直轄河川治水期成同盟会連合会副会長	再任	細江 茂光	岐阜市長、中部直轄河川治水期成同盟会連合会会長		
	坂下 一朗	香川県小豆島町長、内海ダム再開発建設促進期成会副会長	再任	坂下 一朗	香川県小豆島町長、内海ダム再開発建設促進期成会副会長		
	江藤 守國	久留米市長、九州治水期成同盟連合会会長	再任	江藤 守國	久留米市長、九州治水期成同盟連合会会長		
	大場 真弥	全水連事務局長	再任	大場 真弥 (6月30日 付け辞任)	全水連事務局長		
	理 事 (北海道ブロック)			新任	西浦 康之 (7月1日 付け新任)	財団法人リバーフロント整備センター総務部長	
				新任	谷川弘一郎 (6月4日 付け新任)	北海道浦河町長、北海道治水砂防海岸事業促進同盟会長	
			福島 弘芳	つがる市長、岩木川上中流改修期成同盟会副会長	再任	福島 弘芳	つがる市長、岩木川上中流改修期成同盟会副会長
			相原 正明	奥州市長、東北直轄ダム事業促進連絡協議会会長	再任	相原 正明	奥州市長、東北直轄ダム事業促進連絡協議会会長
			岡村幸四郎	川口市長、埼玉県河川協会会長	再任	岡村幸四郎	川口市長、埼玉県河川協会会長
大家 啓一			前小矢部市長、前富山県河川協会会長	新任	西田 耕豊 (6月4日 付け新任)	石川県川北町長、石川県治水協会会長	
監 事	溝口 進	南砺市長、利賀ダム建設促進期成同盟会副会長	再任	溝口 進	南砺市長、利賀ダム建設促進期成同盟会副会長		
	中村 晃毅	西尾市長、愛知県河川海岸協会副会長	再任	中村 晃毅	西尾市長、愛知県河川海岸協会副会長		
	坂川 優	福井市長、近畿直轄河川治水期成同盟会連合会会長	再任	坂川 優	福井市長、近畿直轄河川治水期成同盟会連合会会長		
	佐々木清蔵	広島県安芸太田町長、太田川改修促進協議会副会長	再任	佐々木清蔵	広島県安芸太田町長、太田川改修促進協議会副会長		
	大森 隆雄	大洲市長、四国治水期成同盟連合会副会長	再任	大森 隆雄	大洲市長、四国治水期成同盟連合会副会長		
	牧 剛尔	竹田市長、稲葉ダム促進期成会会長	再任	牧 剛尔	竹田市長、稲葉ダム促進期成会会長		
	津村 重光	宮崎市長、宮崎県河川協会会長	再任	津村 重光	宮崎市長、宮崎県河川協会会長		
	佐々木功悦	宮城県美里町長、江合・鳴瀬・吉田川直轄改修促進期成同盟会副会長	再任	佐々木功悦	宮城県美里町長、江合・鳴瀬・吉田川直轄改修促進期成同盟会副会長		
	奥本 務	高槻市長、淀川右岸治水促進期成同盟会長	再任	奥本 務	高槻市長、淀川右岸治水促進期成同盟会長		